

共同研究

「ニュータウンのある『まち』 —地域における大学の役割に関する実践的研究—」

活動報告

小林 大祐・佐藤 知久

本共同研究は、本学に隣接するグリーンタウン榎島、向島ニュータウンとその近隣地域を対象にニュータウンのあるまちが抱える様々な問題に実践的に取り組んでゆくことで大学の果たす役割の可能性を模索してゆく。

2年目にあたる今年度は、(1)研究会が大学からまちへ出てゆく、(2)他地域のニュータウンのあるまちにおける諸問題や取り組みを学ぶ、という2つの柱を立てた。(1)については、榎島グリーンタウンの周辺に広がる田畑の風景から「農の可能性」として、公開シンポジウムを行うとともに「つながり」としてニュータウンと周辺をつなぐ農作物の直売、親と子をつなぐダンボール・レイキモッキ・ワークショップ、人と人をつなぐカフェ「喫茶ハグクミ」を榎島コミュニティセンターで行った。(2)については兵庫県明舞団地を例として老朽団地再生の実践について、愛知県保見が丘団地を例に外国人集住団地におけるネットワーク形成について、外部講師を招いて2回の研究会を行った。また、第6回研究会に「向島駅前まちづくり協議会」のメンバーの参加を得ることができた。

2008年度は、本共同研究の最終年度にあたり、研究成果をまとめ、発表するとともに研究対象地域へ還元する取り組みが求められる。

●第5回研究会

テーマ：『兵庫県明舞団地の再生について』

講演：ヨム・チョルホ

(住宅総合研究財団特別研究員)

日時：2007年4月13日(金) 17:00-19:00

場所：京都文教大学

普照館2階共同研究室 F232

●公開シンポジウムおよびワークショップ

テーマ：「ニュータウン with つなぐしくみ
～まちの農の可能性～」

日時：2007年5月19日(土) 10:00-16:00

場所：榎島コミュニティセンター

*フィンランドのレイキモッキ・ワークショップ

～ダンボールでオウチをつくってみよう!～

ガイド：小林大祐(京都文教大学現代社会学科)

*休憩タイム：「喫茶ハグクミ」(11時半～16時)

店長：佐藤知久(京都文教大学文化人類学科)

*巨椋池をめぐるパネル展示

*農作物の直売

*シンポジウム (14時～16時)

(1)あいさつ

小林大祐(京都文教大学現代社会学科)

(2)巨椋池干拓地における農業と環境保全ワークショップについて

報告：江口良一

(口福京野菜江口ファーマーズ)

(3)ニュータウンの畑から見えてくるもの

報告：田中美貴子(宇治市議会議員)

(4)子育て支援における農の可能性

報告：三林真弓さん

(京都文教大学臨床心理学科)

(5)コメント

板東忠司(京都教育大学教育学部)

森 正美(京都文教大学文化人類学科)

(6)ディスカッション

(7)まとめ

西川祐子(京都文教大学人間学研究所所長)

総合司会：杉本星子

(京都文教大学文化人類学科)

●第6回研究会

テーマ：「外国人集住団地におけるネットワーク形成の可能性」

講演：米勢治子（浜松学院大学教授、東海日本語ネットワーク副代表、NPO法人保見が丘国際交流センター理事）

コメンテーター：石川真作（京都文教大学人間学研究所客員研究員）

日時：2007年11月16日（金）18：00～20：00

場所：京都文教大学

普照館2階共同研究室 F 2 3 2